# EU Trends

## ポピュリズム先進国オランダ

発表日：2018年3月22日(木)

～忍び寄る脅威（ファントム・メナス）～

第一生命経済研究所　経済調査部
主席エコノミスト　田中　理
03-5221-4527

◇ 昨年３月の下院選でポピュリズム政党の政権奪取を回避したオランダでは、新たなポピュリズム勢力が台頭している。連立政権は辛うじて議会の過半数を確保している状況で、政権基盤は必ずしも磐石でない。有権者の不満が解消された訳ではなく、ポピュリズムの脅威は消えていない。

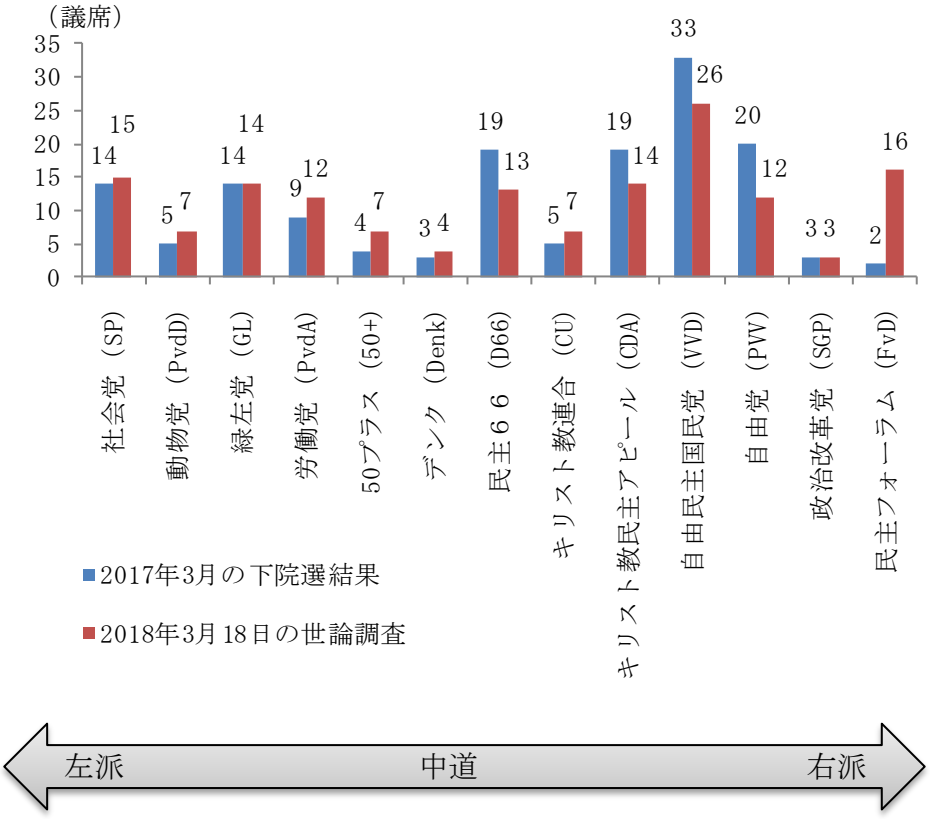
オランダでは反イスラムの旗手・ウィルデルス氏が率いる右派ポピュリズム政党・自由党（ＰＶＶ）の政権奪取が不安視された昨年３月の下院選から１年余りが経過した21日、統一地方選が行なわれた。最大都市アムステルダムの市議会選では、2016年に結党された新興右派ポピュリズム政党・民主フォーラム（ＦｖＤ）が５％近くの支持を獲得した模様。同党は1.8％の支持で初の議席（定数150のうち２議席）を獲得した下院選後に、中道右派の与党・自由民主国民党（ＶＶＤ）やＰＶＶなどから支持を奪い、若年層を中心に支持基盤を広げている。最近の世論調査では15議席程度を獲得するとの予想が多く、ＶＶＤに次ぐ第２党の座をＰＶＶや中道政党等と争っている（図）。ＰＶＶと政治改革党（ＳＧＰ）を加えた右派ポピュリズム勢力の予想獲得議席の合計は30を超え、下院選時の25議席を上回る。反体制派勢力の政権奪取や政権入りが回避されたことで安心感が広がっているが、有権者の不満が解消された訳ではない。不満の受け皿となる政党の顔ぶれを微妙に変えつつ、ポピュリズム勢力は次の機会を窺っている。

民主フォーラムの創設者で党首のボーデット氏は、大学院修了後、同国屈指の難関大学での講師や著名新聞のコラムニストを務めた35歳の知識人。2016年にＥＵとウクライナの連合協定に反対する国民投票を主導した後、同党を旗揚げした。オランダ政治の伝統である多極共存・合意型の民主主義を既存政治家によるカルテルと批判。法的拘束力のある国民投票制度の導入による直接民主制や首相の直接公選制を主張。ＥＵにも批判的で、オランダのＥＵ離脱の是非を問う国民投票の実施を要求している。オランダの伝統文化の保護を主張し、難民の受け入れに反対する。政権奪取を目指すイタリアの五つ星運動に、よりナショナリスト的な要素が加わった政党と言ったところだろうか。

昨年３月の下院選から７ヶ月以上を要して誕生した第３次ルッテ政権は、最大与党のＶＶＤ（33議席）、キリスト教民主アピール（ＣＤＡ：19議席）、民主66（Ｄ６６：19議席）、キリスト教連合（ＣＵ：５議席）から成る４党連立。ＶＶＤは21日の地方選で同党史上初の最大勢力となった模様で、政権発足後も比較的高い支持を保っている。他方、連立に加わるＣＤＡやＤ６６はＶＶＤに票を奪われ、今回の地方選も苦戦を強いられた。連立に加わる４党の合計議席は76と定数150の下院の過半数すれすれで、政権基盤は決して磐石ではない。2021年の議会任期満了を前に新たなポピュリズムの脅威に直面する可能性がある。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

（図）オランダ下院議席の選挙結果と最新世論調査




出所：オランダ下院およびPeil.nl資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。